

補助金評価シート

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|------|------------|------|----------|----|-----------|
| 区分 | 重点・重点以外 | 補助根拠 | 法令補助・その他補助 | 開始時期 | 令和3年4月1日 | 終期 | 令和6年3月31日 |
| 補助事業名 [下段に制度概要を記載] | 福島潟自然文化活動事業補助金 福島潟自然文化基金を活用し、福島潟の自然文化活動事業を行う個人または団体に対し補助金を交付する。 | | | | | | |
| 款・項・目 | 総務費・総務管理費・区政推進費 | | | | | | |
| 所属等 | 北区役所 産業振興課 文化・スポーツグループ 電話 025-387-1195 | | | | | | |

| | | | | |
|---------|------------|------------|------------|-----|
| 年度 | 令和3年度(1年目) | 令和4年度(2年目) | 令和5年度(3年目) | |
| 予算額等の推移 | 予算(千円) | 500 | 500 | 500 |
| | 決算(千円) | 195 | 35 | 40 |
| 補助率 | 1/2 | 1/2 | 1/2 | |

| | | | |
|----|--|--|--|
| 目標 | 福島潟に関する自然文化活動を行う個人または団体を支援することにより、市民との協働による福島潟の自然保護活動やPRを行い、自立して活動する市民を育てていくとともに、市民の柔軟な発想を生かした各種ソフト事業を実施していく。市民との協働による自然保護活動やPR事業などのソフト事業を年間2回以上、協働に携わる市民の数及び事業に参加する市民の数を合計で年間100人以上を目標とする。 <目標が数値でない場合の評価方法> | | |
|----|--|--|--|

| | | | | | | | |
|---------------|--|--------|------------------|-------|-----------------|-------|-----------------|
| 目標に対する達成度(指標) | 達成率100%以上 | 434.0% | 事業2回、市民参加・参加434名 | | | | |
| | 達成率80%以上 | | | | | | |
| | 達成率50%以上 | | | | | | |
| | 達成率50%未満 | | | 28.0% | 事業1回、市民参加・参加28名 | 36.0% | 事業1回、市民参加・参加36名 |
| | 目標が非数値化 ※取扱基準に記載した評価手法に基づく達成度について記入してください | | | | | | |

| | |
|---------------|-----------------|
| 補助事業者による情報の公表 | 案内チラシ・パンフレットに掲載 |
|---------------|-----------------|

| | | | | | |
|-----|------------------|--|---|-----------------------------|---|
| 評価欄 | チェック | a. 補助対象経費は事業の直接経費となっているか | ○ | e. 指標の推移が維持・向上しているか | × |
| | | b. 補助率は1/2以内か | ○ | f. 補助事業者による情報の公表は適正に行われているか | ○ |
| | | c. 補助額が5万円以上になっているか | × | g. 目標は数値化されているか | ○ |
| | | d. 収入が過剰になっていないか(繰越金が生じていないか) | ○ | h. 目標は補助金の成果を検証しやすい設定か | ○ |
| | ×になった項目に対する今後の取組 | <a～fにおける取組> c: 事業の趣旨を踏まえ補助率、補助額は内容を精査のうえ決定していく必要がある。 e: 制度の効果的な周知や、事前相談を充実させるなどして活用件数の向上を図るなどの改善を要する。 <g～hにおける取組> | | | |
| | 目標未達成の原因分析 | <期間(3年)を通して目標達成率80%未満の場合、なぜ達成できなかったか> 補助率を10/10から1/2に引き下げたことや、福島潟で活動する市民団体の高齢化などが影響し、活用件数がほぼ1団体に限定され、参加者も増えなかった。 | | | |
| | | ① 拡充・改善(補助率、補助額、補助対象経費、その他) ② 継続 ③ 廃止 | | | |
| | | ①～③の評価理由 ※目標未達成の原因分析に該当の場合はその要因を踏まえて今後どうするのかを記載すること 当該補助制度は、コロナ禍もありここ2年バードカービングを行う一団体のみに限定されてきた。ビュー福島潟の指定管理者が来年度から新たに変更する見込みであり、制度の趣旨に基づいた自然保護文化や自然保護活動に関して市民と協働した提案がなされており、今後制度を活用した事業効果が期待できる状況にあるため継続していきたい。 | | | |